

# ごとう通信

第124号

平成23年4月1日

残念ながら春を祝い、喜びの時期とはなりません。皆さん地震の影響はいかがでしょうか。この震災で東京の被害は大きくはなかったものの、東北出身の方や東北に知人がおられる方など、心を痛めている方も多いことでしょう。心からお見舞い申し上げます。

日本という国は本当に大きなものを失ってしまいました。取り戻すためにはどれほどの力や時間があるのでしょうか。想像だにできません。しかし、震災直後から「希望」という言葉を多く聞くようになりました。もしかしたら、日本がこれまで一番失っていたものかもしれません。この

大きな痛みから立ち直るためには日本人一人一人が力を合わせていかなければなりません。希望を持って前に進んでいきましょう。

実は、震災によって人生観が変わるほど驚いた出来事がありました。それは海外のメディアが伝える日本の震災と日本人です。どの国も日本人の冷静な態度、団結力や礼儀正しさについて賞賛していたのです。アメリカやイギリスの新聞各紙は、「わが国でこの震災が起きたら大パニックになっていただろうが、日本は違った」と報じました。中国の新聞は、帰宅困難者が規則正しく駅に並んでいる写真を掲載し「中国はまだまだ日本に追いつけない」と報じました。僕が生まれたのは、高度経済成長ど真ん中で日本企業が海外に進出し

始めたころです。エコノミックアニマルと揶揄され、「うさぎ小屋に住んでいる」なんてことも言われました。さらに、バブル期には海外の財産を買いあさり、ひんしゆくを買っていたと思います。その上英語も使いなせず、国際社会から取り残されている印象すら持っていました。

にもかかわらず、震災後、世界の人々から称賛され「日本のために頑張ろう」と言ってもらえたのです。本当に日本に生まれて良かったと思うし、誇りに思いました。と言っても英語の勉強をし直そうとは思いませんが：

僕たちも直接的、間接的に復興に関与していくと思いま

